

流産の知識

*. 流産の確率は、妊娠12週末満で15%!

厚生省心身障害研究班の報告（1991～1993年度）では、流産率は14.9%で、そのうち約90%は妊娠12週末満の早期流産であり、残りの約10%が妊娠12週～22週末満の後期流産であるとされています。妊娠14～15週以降に起きる場合は、子宮の入り口（頸管）のゆるみ（子宮頸管無力症）が原因（母体側の流産原因）のことがあります。

そのため、早期の母体の健康管理がとても大切になります。妊娠したかな?!と思われたら早めに医療機関を受診しましょう。

*. 流産をくりかえす「不育症」は、医師に相談してみましょう

妊娠はするものの流産や死産を2回以上くりかえし、赤ちゃんが得られない場合を「不育症」といいます。妊娠初期の流産の原因は、多くが胎児（受精卵）の偶発的な染色体異常とされていますが、流産を繰り返す場合には、その他に原因がある場合があります。

たとえば、子宮の形の異常、内分泌異常（甲状腺異常、糖尿病）、抗リン脂質抗体症候群や血液凝固因子異常などの血栓性素因、染色体異常など考えられますが、不明の場合も6割以上あります。

検査、治療を受けた人のうち8割以上の方が無事、出産できているという報告があります。ご夫婦だけで悩まず、医師に相談しましょう。

*. 流産の前ぶれ

外来では、「なんとなく下腹部に不快感がある」、「予定していた生理の頃に少量の性器出血があった」などが訴えとしてよく聞かれます。月経開始後4週間半頃（受精後17日頃）に認められる少量の性器出血は、胎盤徴候といって一時的なものもありますが、なかには切迫流産⇒進行流産に移行するものもありますので、受診して医師の指示に従いましょう。

*. 流産予防のために

お勤めの方は、必要に応じて休業しましょう。特に激しい全身運動を伴う作業（スポーツインストラクターなど）、筋力を多く使う作業（物品の集配・保育士・看護師・介護職など）、歩行時間の長い作業（外勤営業など）、長時間の立ち作業（調理師・販売レジ係・工場でのライン作業・美容師など）、精神的負担の大きい作業（納期や締切に追われる設計・開発職や編集作業、対人折衝の多い営業職など）では注意しましょう。

自宅療養や入院加療の際には、『[母性健康管理指導事項連絡カード](#)』を利用するとよいでしょう。